

大会開催にあたって

今年度の研究大会および総会は、11月14日(土)・15日(日)、人間環境大学(愛知県岡崎市)に場所をお借りして開催します。

今大会では、一般発表と二つのシンポジウムを企画いたしました。一般発表は例年どおり3会場に分け、20名の方にご発表いただきます。

フッサール生誕150周年にあたる本年は、フッサールや現象学源流に関連したシンポジウムを二つ行います。

初日のシンポジウム1は、現象学研究の泰斗であり、日本にも多くの門人がおられるベルンハルト・ヴァルデンフェルス氏とクラウス・ヘルト氏にご提題いただき、塩川千夏氏と稲垣諭氏に指定討論をお願いします。言語はドイツ語ですが、原稿翻訳や質疑応答の通訳を考えております。

二日目のシンポジウム2は、現象学の源流と今後の展望を考察するという趣旨のもとで、北政現象学会からハンス・ルイン氏、本会から武内大氏にご提題いただき、指定討論は池田喬氏をお願いしております。言語は英語です。

今回も海外から3名の方に提題者としてご参加いただき、国際交流が定着してまいりました。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。本大会に関心をもつ非会員の方々をお誘いいただくのも大歓迎です。それでは人間環境大学でお待ちいたします。

企画実行委員長

プログラム

11月14日(土)

10:00-12:25

個人研究発表(発表30分・質疑応答15分)

第1会場(3号館311)

10:00 竹中 正太郎(大谷大学)

フッサールにおける純粹自我と人格概念について
——イデー期を中心にして——

10:50 奥田 万里子(大谷大学)

フッサールにおける自己移入論

11:40 八重樫 徹(東京大学)

フッサールにおける「真の自我」

第2会場(3号館321)

10:00 鈴木 雄大(東京大学)

前期ハイデガーと『論理学研究』
——カテゴリー的直観を中心として——

10:50 伊藤 良司(慶応義塾大学)

ハイデガーと「身体」

11:40 阿部 将伸(京都大学)

ハイデガーのメタ存在論再考

第3会場(3号館531)

10:00 西岡 けいこ(香川大学)

メルロ=ポンティ絵画論における可能的鑑賞者

10:50 三松 幸雄(東京大学)

発生・弁証法・現象学
——初期デリダの哲学研究における基本問題——

11:40 國領 佳樹(首都大学東京)

メルロ=ポンティの錯覚論とその射程

12:30-14:30 昼休み

第1回委員会(場所:B館6階大会議室)

14:45-17:45【シンポジウム1】(場所:A館)

フッサール生誕150周年記念シンポジウム

提題者: ベルンハルト・ヴァルデンフェルス氏

Bernhard Waldenfels

「間接的記述(Indirekte Beschreibung)」

クラウス・ヘルト氏 Klaus Held

「エトムント・フッサールの現象学における神(Gott in Edmund Husserls Phänomenologie)」

指定討論者: 塩川 千夏氏(成蹊中学高校教諭)

稲垣 諭氏(東洋大学)

司会: 榊原 哲也氏(東京大学)

山口 一郎氏(東洋大学)

18:00-20:00

懇親会 会場: 学生食堂(会費5000円)

11月15日(日)

9:30-12:45

個人研究発表(発表30分・質疑応答15分)

第1会場(3号館311)

9:30 畠山 聡(成城大学)

Anomalitätの経験と経験のAbbau
——フッサール『現象学』第14巻テキスト6の読解を通じて——

10:20 福光 瑞江(京都学園大学)

フッサールの「触発」をめぐる攻防

11:10 澤田 哲生(日本学術振興会)

フッサール空想論の射程再考

12:00 秋葉 剛史(慶応義塾大学)

後期ブレンターノの存在論について

第2会場(3号館321)

10:20 佐藤 駿(東北大学)

現象学的認識論における理性概念

11:10 富山 豊(東京大学)

初期・中期フッサールにおける意味概念の動揺

12:00 金 正旭(北海道大学)

エミール・ラスクの超越論的現象学

——『論理学研究』の批判的受容を通じた超越論哲学の刷新——

第3会場 (3号館531)

9:30 呉羽 真 (京都大学)

意識の科学的説明における現象学の位置

10:20 落合 芳 (関西学院大学)

「不滅」の過去と身体図式

—メルロ=ポンティにおけるプルースト—

11:10 譽田 大介 (慶応義塾大学)

「沈黙」と「翻訳」

—ハイデガーによるヘルダーリン解釈への一視座—

12:00 景山 洋平 (東京大学)

ハイデガーにおける単独性と複数性の存在構造

13:00-14:00 昼休み

第2回委員会 (場所: B館6階大会議室)

14:15-14:45 総会 (場所: A館)

15:00-17:30 【シンポジウム2】 (場所: A館)

「今日の世界の哲学状況におけるフッサール現象学の射程」
(Considering phenomenology for the future world, once again from the beginning)

提題者: ハンス・ルイン氏 Hans Ruin

(Södertörns 大学, Stockholm in Sweden)

武内 大氏 (東洋大学)

指定討論者: 池田 喬氏 (学術振興会研究員、東京大学)

司会: 谷 徹氏 (立命館大学)

お知らせとお願い

1 会費納入 学会費 (年間 3000 円) を同封の振込用紙にて早急にご納入ください。研究大会当日、会場においても受け付けます。封筒宛名右下の数字は、未払い年度数 (本年度分も含む) を示します。その数×3000 円をお支払いください。

2 出欠の連絡 会場準備の都合がありますので、研究大会および懇親会への参加の有無を、同封の返信用ハガキにご記入の

上、10月23日(金)までに必ずお知らせください。また、返信されたハガキは名簿作成の資料となりますので、住所、所属等に変更がある場合には、その箇所に朱線をお引き下さい。

3 公式ホームページ 本学会のホームページを開設しております。今回の大会の内容も要旨等が掲載される予定です。ホームページアドレスは以下の通りです。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/paj2/>

4 2008年度決算報告

【歳入】		【歳出】	
前年度繰越金	1,754,800	『年報』出版費	802,290
納入学会費	1,395,000	『年報』編集費	950
『年報』売上	45,400	『年報』送料	54,660
普通預金利子	769	通信費	152,214
補助費 (専修大)	92,298	企画・実行費	2,000
計	3,288,267	事務局経費	5,544
【次年度繰越金】 1,745,606		研究大会開催費	250,233
		研究大会講師謝礼	40,105
		国際学会年会費	10,025
		事務謝礼	120,000
		会員名簿作成費	67,710
		事務局移転費	36,930
		計	1,542,661

人間環境大学 (愛知県岡崎市) へのアクセス、岡崎市の宿泊のご案内につきましては、別紙をご参照ください。

第31回

研究大会

日時: 2009年11月14日(土)・15日(日)

会場: 人間環境大学

日本現象学会

事務局 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部哲学合同研究室内
TEL: 06-6368-0322
FAX: 06-6330-3075
郵便振替 00980-9-109153
E-mail: paj2@wwwsoc.nii.ac.jp